



冬休みに取り組みたい!

教科別 苦手科目克服法

みなさんは苦手科目はありますか。苦手な科目や嫌いな科目は、やる気がおきず、勉強もおろそかになります。もうすぐ冬休みです。時間に余裕がある長期の休みは、苦手科目を克服するチャンスです。時間をかけてじっくり取り組み、苦手を得意に、嫌いを好きに変えられるようにがんばりましょう。

科目に対して苦手意識をもつてしまふ一番の要因は、理解できずに問題が解けないことにあります。解き方が分からぬ内容や問題を放置してしまうことで、問題が解けなくて勉強が嫌になり、苦手意識がどんどん強くなっています。過去に問題が解けなかったことから、自分はその科目が苦手だと思い込んでしまう場合もあります。また、暗記が多い科目では暗記そのものが苦手という人や、文章を読むのが苦手で文章題が解けないという人もいます。まずは苦手意識がどこにあるのかを見極め、勉強の取り組み方を見直しましょう。

苦手科目の克服のポイント

苦手分野を知る.. 算数なら、計算・文章題・図形、国語なら漢字・読み取りなど、科目にはいくつもの分野があります。自分はどの分野が苦手なのか、どの分野なら解けそうかを分析し、できそうなところから勉強をしてみましょう。できることを少しずつ増やしていけば、苦手意識も薄れてきます。

できないところに立ち戻る.. 勉強は学習内容の積み重ねであり、苦手科目には「つまづきポイント」が存在します。このポイントを放置すると、理解できないことがどんどん増えてします。まずはどこでつまづいたのかを確認し、特定できたら学び直しをしましょう。つまづきが解消されると理解度が格段に上がり、やる気もアップします。

勉強法を身につける.. 科目にはそれぞれに適した勉強法があります。「何から手を付けていいのか分からぬ」という人は勉強の仕方を先生などに相談して、効率的に学ぶ方法を身につけましょう。

苦手科目はどうしてできる?

算数

算数の苦手意識を克服する一番の方法は、計算力をつけることです。計算が得意な子は算数に自信がもてるようになります。「1日1ページ」のように無理のない問題量で計算を習慣として取り入れ、反復練習で訓練ていきましょう。高学年になると計算も複雑になってくるので、低学年から計算法則を一つずつしっかり身につけていくことが大切です。また普段の生活で買い物などの際に簡単な計算問題を出したりして、計算の習慣をつけてていきましょう。



社会

覚えることが多く、用語も難しいため、社会を苦手に感じるお子様は多いようです。そもそも学習内容に興味がないと意欲もわきません。勉強と思わずに、日常生活の中で地理や歴史、政治経済などに親しんでいきましょう。クイズ番組やゲーム、映画やマンガなど教材はたくさんあります。学校で習った場所に行ってみたり、工場見学をしたりして、実際に見ると興味もわいてきます。さらに新聞やニュース番組を見て、家庭でも社会問題を話題にしてみましょう。



国語

国語が苦手な一番の原因是読解力の不足です。文章の主題が分からなかったり、内容をイメージできなかったりすると、文章を読むのが苦痛でますます嫌いになってしまいます。まずは興味のある分野から本に触れる機会を増やし、少しずつ長い文章を読めるようにしていきましょう。また語彙力を増やすことも大事です。家庭での日常会話を通じて多くの言葉に触れ、言葉の使い方を学びましょう。さらに日記など「書く」ことも取り入れていきましょう。

思学舎パーソナル
荒川沖教室
岡崎 千裕先生



理科

理科の学習には探求心や好奇心が不可欠で、それらが持てないと楽しい気持ちになれず、学習意欲もわきません。身の回りのことに興味関心をもつようになるために、「体験」が大事です。虫を探したり、植物や生き物を育てたり、星を眺めたり、博物館や科学館に行ったりして、いろいろな体験をしましょう。動画を視聴したり、図鑑を活用したりするのもいいでしょう。日常生活の中で理科の要素に触れて、興味関心を育てていきましょう。

俊英四谷大塚
研究学園教室
小神野 太樹先生




思学舎グループ


Q. 中学受験の準備はいつから?



A. 中学受験の準備は「今からでは遅いかも」と不安になりますよね。しかし、始める時期に絶対的な正解はありません。決断した「今」こそが、お子様にとって最高のスタート地点です。大切なのは、残された期間で「どれだけ集中して取り組めるか」です。焦る必要はありません。まずは親子でしっかり話し合い、目標に向かって一歩を踏み出しましょう。その決意と行動が、未来を切り拓きます。



Q. 中学受験は家庭だけで乗り切れる?



A. 中学受験を家庭での学習だけで乗り切ることは不可能ではありません。しかし受験に必要な学習全部と、集中力・モチベーション管理、さらに受験情報の収集まで家庭だけでやろうとするのは、かなり大変なことです。学習計画や進行状況をみてくれる先生がいて、同じ目標を持つライバルと競い合える塾の環境は、学習意欲をアップさせてくれると思います。家庭学習と塾の授業やテストを組み合わせるのがベストな選択ではないでしょうか。



Q. 中学受験のために低学年からできる対策は?



A. 中学受験では様々な能力が要求されます。その中でも特に重要視されているのは「情報処理能力」です。適性検査型の入試方式では言うまでもなく、4科(2科)型の入試でも文章を読んで答えさせる問題が増えてきています。低学年からであれば短い物語や本を読み、その内容がどのようなものであったかを整理して伝える、といったことを日頃から行うことをオススメします!



勉強の悩み Q&A

家庭学習どうしてる? 中学受験どうしよう?
尽きない勉強の悩みに思学舎講師がズバリ答えます



Q. 何度も声をかけないと宿題をやりません



A. お子様が自ら宿題に取り組むためには、「自分で決めた感」を持たせる声かけが有効です。例えば「今日いつやる?」と時間や順番を選ばせることで主体性が育ちます。また、タイマーを使って開始時刻を「見える化」すると行動が習慣化しやすくなります。最初の1問だけ一緒に取り組むなど、ハードルを下げて流れに乗りやすくする工夫も効果的です。さらに、結果より「自分で始められた」などの行動をほめることで、次も頑張ろうという気持ちが育ちます。



Q. すぐに飽きてしまって集中力が続きません



A. 「まずは15分、タイマーで時間を決めて『集中ゲーム』をしよう!終わったら一緒に休憩ね」と具体的に誘ってみましょう。「できたね!次は20分に挑戦!」と、結果ではなく「頑張った過程」を褒めると、自信につながります。大切なのは、親も一緒に楽しむ姿勢です。「すごい集中力だね!」とポジティブな言葉で応援し、好奇心を刺激してあげてください。親子で小さな成功体験を積み重ねることが、集中力アップへの一番の近道です。



Q. 計算ミスをなくすには?



A. まず「正しい方法」で計算しましょう。「途中式を書かない・字が汚い・解き方が教科書と違う」という人は、計算ミスがなくなりません。自分の解き方は正しいか、先生に確認し、正しい方法で繰り返し計算練習してみてください。基礎ができていない人はその前の単元や、前の学年の内容の復習からしましょう。それでもミスが減らない場合は「意識」を変えます。面倒くさがらずに、解き終わったら見直しや確かめ算を必ずしましょう。

選抜コース説明会
中学部TOP
2026新年度
目標を
土一・竹園を
目指す!!



説明会
中学受験コース
2026新年度
新年度2月スタート



日程
第1回 12月13日(土)
第2回 1月17日(土)
選抜テスト(英数国) 同時開催

お申込



附属中TOPPAコース説明会&入塾テストは随時開催します。
俊英四谷大塚コース説明会 日程
※入塾テスト 同時開催
第3回 12/20(土) 第4回 1/10(土) 第5回 1/17(土)

※第1回・第2回は終了いたしました。

お申込



思学舎グループ

0120-50-3759

■受付火～土曜日／10:00～21:00 ※日曜・月曜・祝日はお休みです。

思学舎

検索